

目次

はじめに	3
第一章 最悪の日中関係	11
第一節 尖閣諸島国有化への抗議行動勃発	12
① 領土問題への基本的視点	12
② 石原都知事の購入提案	16
③ 第一ステージ——石原演説から7月初めまで	20
④ 第二ステージ——国有化方針発表から9月初めまで	25
第二節 国有化で危険水域に	32
① 日中で異なる「国有化」のニュアンス	32
② 中国側が事態を深刻に受け止めた論理	35
③ 日本にとっては「実効支配の維持」が重要	39
④ 中国側は「棚上げ」の黙約に日本を戻そうとしている	41
第三節 懸念される経済への影響	47
① 在上海日本人ビジネスマンからの便り	47

第二章

過去をふりかえる

- ② 被害総額48億円の長沙平和堂 52
- ③ 青島イオン・ジャスコ黄島店と蘇州イズミヤ 57
- ④ ユニクロ、無印良品、セブンイレブン、ファミリーマート 60
- ⑤ 被害甚大の旅行業と自動車メーカー 64

第一節

固有領土論のいかがわしさ

- ① 「1895年正式に日本領土に編入」の正否 73
- ② 井上清著『尖閣』列島——釣魚諸島の史的解明 75
- ③ 「尖閣」の命名は1900年 78
- ④ 中国側主張——「明治政府の対外拡張政策の延伸」 79

第二節

米国の曖昧戦略——戦後秩序の論点

- ① 戦後秩序下の日中双方の主張 86
- ② 米国の立場——領有権紛争にはどちらの肩も持たない 93

第三節

「棚上げ」の歴史と記憶

- ① 田中角栄・周恩来会談記録削除の怪 97
- ② 日中平和友好条約交渉における揺れ 100

第三章 国際関係のなかの尖閣諸島問題

第一節

③ 右翼団体「日本青年社」による灯台建設事件	107
④ 国連海洋法条約の批准と上陸合戦	111
⑤ 領土問題は存在しないという虚構	114

中国に内在する論理を説明する

第二節

日中関係——強まる相互不信

..... 139

① 漁船衝突事件以後の日中関係	139
② 中国艦隊通過と抑止論	142
③ 米軍再編の一環としての自衛隊配置と防空識別圏問題	151

第三節

対中ポジションを探る米国

① 米国のアジア回帰と中国との利害調整	157
② 多極化と相互依存構造のなかで再調整	162

第四章 領土と国家の相対化……………169

第一節 台湾と兩岸関係……………171

- ① 「東シナ海平和イニシアチブ」……………171
- ② 主権も棚上げした兩岸関係……………176
- ③ 領土の「魔力」を解き放とう……………180

第二節 日米中の均衡ある発展を……………183

- ① 日本の政治を牛耳っている対中脅威論……………184
- ② ブレジンスキーの米中融和戦略論……………186
- ③ キッシンジャーの対中観……………190
- ④ 日米中の安保対話の醸成……………193
- ⑤ 中台の統一の展望……………195
- ⑥ 中国にも台頭する平和的「棄台促統論」……………198

第三節 境界を越える意識と文化……………199

- ① 金門から境界のない世界が見える……………199
- ② 台湾と一体だった沖縄や尖閣……………206

資料 日中台が各々領有権を主張する根拠…………… 213

1. 日本…………… 214

(1) 尖閣諸島の領有権についての基本見解(平成24年10月)…………… 214

(2) 尖閣諸島に関するQ & A…………… 214

(3) 尖閣諸島に関する事実関係(我が国の立場とその根拠)…………… 221

(4) 尖閣諸島に関する三つの真実(平成24年10月4日)…………… 225

2. 中国…………… 227

(1) 釣魚島問題の基本的状況(2012年9月15日)…………… 227

(2) 「釣魚島は中国固有の領土である」白書(訳文)(2012年9月25日)…………… 230

3. 台湾…………… 238

(1) 日本が釣魚台列島を占拠した歴史的証拠(2012年9月28日)…………… 238

(2) 外交部・馬総統が「東シナ海平和イニシアチブ」を提起、関係国が平和的手段で釣魚台列島を巡る争議を処理するよう呼びかける(2012年8月6日)…………… 240

(3) 馬英九総統が彭佳嶼を視察、重要談話を発表(2012年9月10日)…………… 242

おわりに…………… 245